

オムロンの成長戦略における知的財産部門の貢献実績

はじめに

オムロンは、制御機器、電子部品、ヘルスケアなど、幅広い分野で事業を展開するグローバル企業である。同社は、「ソーシャルニーズの創造」を企業理念に掲げ、社会課題の解決に貢献する革新的な製品・サービスを提供することで持続的な成長を遂げてきた¹。近年、企業価値に占める知財・無形資産の割合が増加し、競争力の源泉として、知的財産の重要性が高まっている²。オムロンにおいても、知的財産部門は、企業理念の実現、そして持続的な成長を支える重要な役割を担っている。

本稿では、オムロンの成長戦略における知的財産部門の貢献実績について、以下の観点から詳細に分析する。

1. オムロンの知的財産部門の役割と活動内容
2. オムロンの成長戦略における知的財産部門の貢献
3. オムロンの知的財産部門の貢献実績に関する具体的な事例
4. オムロンの知的財産部門の今後の展望

1. オムロンの知的財産部門の役割と活動内容

オムロンの知的財産部門は、技術・知財本部の中に設置されている知的財産センターが中心となって活動している³。同センターは、オムロンのすべての知的財産・無形資産に関するガバナンスを統括し、技術開発、新規事業創出、既存事業に対し、知財戦略の策定・実行・監督を担っている⁴。

(1) 知的財産部門の組織構造と人員規模

オムロンの知的財産部門の組織構造に関する情報は限られているが、知的財産センターは、技術・知財本部の中に位置づけられており、研究開発部門、事業企画部門、法務部門等と連携して活動していると考えられる³。人員規模については、公開情報から具体的な数値を把握することはできなかった。しかし、知的財産センターは、特許、意匠、商標など、幅広い分野の専門家を擁し、グローバルな知財戦略を推進していることがわかる⁴。

(2) 知的財産に関する活動内容

オムロンの知的財産部門は、特許出願、権利化、活用、侵害対策など、幅広い活動を行っている。主な活動内容は以下の通りである。

Activity	Description	Example
特許出願・権利化	オムロンは、コア技術である「センシング&コントロール+Think」を強化し、社会課題を解決する新技術の開発に注力している。知的財産部門は、これらの新技術に関する発明を特許として出願・権利化することで、競争優位性の確保に貢献している。 ⁵	センシング&コントロール技術を用いた、工場の自動化システムに関する特許
知財活用	オムロンは、知的財産を、自社製品の売上やシェアを伸ばすための「独占排他型」と、パートナーとのアライアンスを重視する「シェアリング&インクルージョン型」の2つの方法で活用している。 ⁴	
侵害対策	オムロンは、自社の知的財産権を保護するため、模倣品対策など、国内外で侵害対策に取り組んでいる。 ⁶	中国における模倣品対策
ブランド保護	オムロンブランドへの信頼を守るため、商標権の侵害や不正使用への対応を行っている。 ⁴	「OMRON」商標の不正使用の監視

知財活用：独占排他型とシェアリング&インクルージョン型

オムロンは、知財活用において、「独占排他型」と「シェアリング&インクルージョン型」の

バランスを重視している点が特徴的である⁴。

- **独占排他型**: 特許権を行使することで、競合他社の参入を抑制し、市場における優位性を確保する。
- **シェアリング&インクルージョン型**: パートナー企業と連携し、知財を相互に活用することで、新たな価値を共創し、市場の成長を促進する。

(3) 知的財産戦略の策定と実行

オムロンの知的財産戦略は、長期ビジョン「Shaping the Future 2030」(SF2030)の実現に貢献することを目的として策定されている²。知財戦略は、事業戦略、技術戦略と一体となって推進され、知財・無形資産活動を企業価値向上のためのバリュードライバと位置づけている⁴。また、2015年からは「ROIC(投下資本利益率)経営」を推進しており、知財・無形資産活動を将来への成長に向けた投資と捉え、事業において有効活用し続けることで将来のROIC向上に反映させることを目指している⁴。

知的財産センタでは、業務効率化と抜本的な改革を目指し、2016年10月から「Compass」プロジェクトに取り組んでいる⁷。このプロジェクトは、社内で高く評価され、「ROIC経営2.0」を実現したプロジェクトとして、全社に紹介された。また、働き方改革のモデルケースとして、他部門や関係会社からも注目されている。

2. オムロンの成長戦略における知的財産部門の貢献

オムロンの知的財産部門は、以下の方法で同社の成長戦略に貢献している。

(1) 知的財産による競争優位性の確保

オムロンは、知的財産を、新規事業やイノベーションを創出する構想段階で他社に対する参入障壁を構築するための重要な経営資源と位置づけている⁴。コア技術に関する特許など取得・活用することで、競合他社との差別化を図り、競争優位性を確保している。

(2) 知的財産を活用した新規事業の創出

オムロンは、「独占排他型」と「シェアリング&インクルージョン型」の知財活用を通じて、新規事業の創出を促進している⁴。

(3) 知的財産による収益の増加

オムロンは、知的財産を活用することで、収益増加を目指している。具体的な事例としては、ライセンス契約による収益などが挙げられる。

(4) 知的財産による企業価値の向上

オムロンは、知財・無形資産活動を企業価値向上のためのバリュードライバとして捉え、従来の特許を中心とした知財活動から技術・ノウハウや人財能力などにもスコープを広げた知財・無形資産活動に取り組んでいる⁴。これらの活動を通じて、企業価値の向上を目指している。

3. オムロンの知的財産部門の貢献実績に関する具体的な事例

オムロンの知的財産部門の貢献実績を示す具体的な事例として、以下の点が挙げられる。

- 「世界で最も革新的な企業・研究機関 100 社」に選出: オムロンは、クラリベイト社が選出する「世界で最も革新的な企業・研究機関 100 社 (Top 100 グローバル・イノベーター)」に 2016 年度から 7 年連続でランクインしている⁴。これは、世界で最も革新的な企業・研究機関 100 社を選出するものであり、知的財産および特許動向から、世界的な影響力を持つイノベーションを創出している企業を選出している。オムロンの知財・無形資産活動が高く評価された結果であると言える。
- 知財功労賞「特許庁長官表彰」を受賞: オムロンヘルスケアは、平成 29 年度知財功労において、知的財産権制度活用優良企業として「特許庁長官表彰」を受賞した⁶。これは、医療機器の使いやすさと精度を両立させるための、デザイン、特許、意匠、商標などを活用した知財戦略が評価されたものである。
- 日本知財学会「産業功労賞」を受賞: オムロンは、第 13 回日本知財学会「産業功労賞」を受賞した¹。これは、創業以来、「ソーシャルニーズの創造」に基づいた知財戦略を展開し、数々のイノベーションを生み出してきたことが評価されたものである。
- IoT 事業における知財戦略: オムロンは、IoT 事業においても、知財戦略を積極的に展開している⁸。
 - エッジにおける差別化要素: 現場でのデータ取得・リアルタイム性など、自社コンポーネント独自の提供価値を明確化し、製品の魅力づくりに貢献している。⁸
 - アプリ特許の強化: 共創を背景に、自社製品だけでなく、顧客製品に関する特許（アプリ特許）を出願・権利化することで、事業の自由度を確保している。
 - マーケティングプロセスへの知財情報の活用: 従来発明が少なかった上流部門のプロセスに知財情報の活用を組み込むことで、アプリ特許の質・量向上を図っている。

4. オムロンの知的財産部門の今後の展望

オムロンの知的財産部門は、以下の 3 点に重点を置きながら、今後の活動を展開していくと考えられる。

(1) 知的財産戦略の進化

オムロンは、事業環境の変化に対応し、知財戦略を継続的に進化させていく必要がある。具体的には、以下の点が挙げられる。

- **知財情報分析:** 知財情報を活用した「顧客ニーズの把握」、「事業で勝つためのストーリー作り」、「事業における投資対効果の向上」を推進していく⁹。
- **全社横断的な知財マネジメント:** 各事業部門の技術や知見を、知財・無形資産として集約し、全社に展開していく⁹。
- **AI活用:** 生成AIなどを活用することで、業務効率向上、IP ランドスケープにおける仮説検証の質向上などを目指していく⁹。

(2) 新技術分野における知的財産の重要性

オムロンは、ロボティクス、センシング、パワーエレクトロニクス、AI・データ解析といった、新たな技術分野においても、知財戦略を強化していく必要がある⁵。

(3) グローバル化における知的財産戦略

オムロンは、グローバルに事業を展開する企業として、海外における知財戦略の重要性も増している。各国・地域の法制度や商習慣を踏まえ、グローバルな視点で知財戦略を策定・実行していく必要がある。

知的財産への投資促進に向けた国の取り組み

近年、日本においても知的財産の有効活用が課題となっており、政府は企業の知財投資促進に向けた様々な取り組みを行っている。

- **コーポレートガバナンス・コードの改訂:** 金融庁は、コーポレートガバナンス・コード（上場企業が行う企業統治においてガイドラインとして参照すべき原則・指針）の2021年改訂版で「知財への投資について、自社の経営戦略・経営課題との整合性を意識しつつ分かりやすく具体的に情報を開示・提供すべき」と規定した²。
- **知財・無形資産 経営者フォーラム:** 2022年秋には、政府機関、大手企業約30社や機関投資家、教育機関など50以上の組織・団体の経営トップや有識者から成る「知財・無形資産 経営者フォーラム」が立ち上がり、オムロンもその立上げメンバーとして名を連ねた²。

両利きの知財活動

オムロンは、長期ビジョン「Shaping the Future 2030」（SF2030）の実現に向けて、「独占排他型」と「シェアリング&インクルージョン型」を最適なバランスで組み合わせた、「両利きの知財活動」を実行することを戦略目標に掲げている²。

結論

オムロンの知的財産部門は、同社の成長戦略において、競争優位性の確保、新規事業の創出、収益増加、企業価値向上など、多岐にわたる貢献を果たしている。同社は、知財・無形資産活動を企業価値向上のための重要なバリュードライバーと位置づけ、長期ビジョン「SF2030」の実現に向けて、知財戦略を継続的に進化させていくと考えられる。

具体的には、知財情報分析、全社横断的な知財マネジメント、AI活用などを推進することで、知財・無形資産の価値を最大化し、持続的な成長を支えていくことが期待される。

オムロンの知財戦略の特徴として、「独占排他型」と「シェアリング&インクルージョン型」の知財活用のバランス、「ソーシャルニーズの創造」という企業理念に基づいた知財活動などが挙げられる。これらの特徴を維持・発展させながら、オムロンは、社会課題の解決に貢献し、持続的な成長を続けていくことが期待される。

引用文献

1. 第13回日本知財学会「産業功労賞」を受賞 - OMRON Corporation, 1月11, 2025 にアクセス、<https://www.omron.com/jp/ja/news/2016/07/c0704.html>
2. 両利きの知財活動を戦略目標に | We are Shaping the Future! 私たちが手繰り寄せる未来ストーリー | オムロン株式会社 - OMRON Corporation, 1月11, 2025 にアクセス、<https://www.omron.com/jp/ja/edge-link/news/697.html>
3. 知財の仕事 | 技術・知財本部新卒採用サイト | オムロン - OMRON Corporation, 1月11, 2025 にアクセス、<https://www.omron.com/jp/ja/recruit/technology/work/intellectual-property.html>
4. 両利きの知財活動を戦略目標に～オムロン知財戦略の... - PR TIMES, 1月11, 2025 にアクセス、<https://prtimes.jp/story/detail/B5w3MPiA6wr>
5. 技術・知財本部, 1月11, 2025 にアクセス、https://www.omron.com/jp/ja/ir/irlib/pdfs/ar22j/OMRON_Integrated_Report_2022_jp_19.pdf
6. 平成29年度知財功労賞「特許庁長官表彰」を受賞 - OMRON Corporation, 1月11, 2025 にアクセス、<https://www.omron.com/jp/ja/news/2017/04/h0411.html>
7. オムロン株式会社様 | お客様事例, 1月11, 2025 にアクセス、https://www.ctp.co.jp/case_study/case108/
8. オムロンにおける知財マネジメントの取組み, 1月11, 2025 にアクセス、<https://www.inpit.go.jp/content/100868666.pdf>
9. INTEGRATED REPORT 2024 - OMRON Corporation, 1月11, 2025 にアクセス、https://www.omron.com/jp/ja/ir/irlib/pdfs/ar24j/OMRON_Integrated_Report_2024_jp_A4.pdf